

授業概要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類		授業担当者
人間の尊厳と自立	(講義 ・ 演習 ・ 実習)		小池 綾子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	30時間(2)	1年 前期	必修
【授業の目的・ねらい】			
人間の理解を基準として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護福祉の倫理的課題について対応できるための基礎を養う。			
【授業全体の内容の概要】			
人間の自己理解・他社理解、人権尊重とアドボカシー及び自立支援と支援者・被支援者との関係を理解し、よりよい対人援助者としての基礎をつくる。			
【授業終了時の達成課題(到達目標)】			
・「人間」の理解を図る。 ・人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解する。 ・介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
コマ数	授業内容		
1	オリエンテーション		
2	人間の尊厳と人権・福祉理念	人間の尊厳と利用者主体①	
3	人間の尊厳と人権・福祉理念	人間の尊厳と利用者主体②	
4	人間の尊厳と人権・福祉理念	人権思想と潮流とその具現化	
5	人間の尊厳と人権・福祉理念	人権や尊厳に関する日本の諸規定	
6	人間の尊厳と人権・福祉理念	社会福祉領域での人権・福祉理念の変換①	
7	人間の尊厳と人権・福祉理念	社会福祉領域での人権・福祉理念の変換②	
8	人間の尊厳と人権・福祉理念	人権尊重と権利擁護①	
9	人間の尊厳と人権・福祉理念	人権尊重と権利擁護②	
10	自立のありかた	自立の概念と多様性①	
11	自立のありかた	自立の概念と多様性②	
12	自立のありかた	自立とは	
13	自立のありかた	介護を必要とする人々の自立と自立支援	
14	自立のありかた	介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自立支援の関	
15	まとめ・定期試験		
【使用テキスト・参考文献】 ・「人間の理解」(中央法規) ・作成したプリント		【単位認定の方法及び基準】 試験成績・確認テスト・課題及び意欲、出席要件等を加味し、総合評価とする。(基準:60点以上を合格とする)	

授 業 概 要

現場で使える レクリエーション活動援助法	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実技)	授業担当者 加藤 京子
授業の回数 15回	授業数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1年・前期 必修・選択 選択
【授業の目的・ねらい】 1. レクリエーションを通して「楽しい」を実感し、介護福祉士としての資質を高め、意欲を高揚させる。 2. レクリエーション活動を通して、コミュニケーション・ワークを体験し、広く人間関係を身につけさせる。 3. レクリエーションの種々の素材・アクティビティを体験し、介護福祉士としてのレク援助技術を身につけさせる。 【授業全体の内容の概要】 1. 講義＝レクリエーションとは。レクの意義。介護福祉におけるレクの実践。コミュニケーション・ワークの意義 2. 演習＝レク・プログラムの企画・運営。対象に合わせたレク・ワーク。安全管理の方法。 3. 実技＝アイスブレイキング、ホスピタリティの実践。レク・スポーツ、レク素材提供の技術の取得。 【授業終了時の到達課題】 (到達目標) レクリエーションの意義・大切さ体得し、介護福祉士としての資質が高められ、より多くの人々に生きがいを提供することができる人格の形成を目標とする。		
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】コマ数 1 「介護福祉士とレクリエーション」 講義：オリエンテーション。介護福祉とレク 「室内で楽しむレク (1)」 実技：頭を使って楽しむレク 手先を使って楽しむレク 2 「室内で楽しむレク (2)」 演習：リズム遊び歌 (肩たたき歌) を体験。自分で考えた肩たたき歌を披露して皆で楽しむ。 実習：「皿回し」体験し、自分なりの工夫をしながら作成 3 「造形 (絵画) 活動を楽しむレク (1)」 講義：絵具やスタンプ等を使用する造形活動の楽しさ、意義、癒し効果 実技：絵の具を使った様々な造形体験をする。 4 「子どもと楽しむレク」 実技：障害のある子どもと一緒に楽しめる様々なレク体験。 障害のある子どもと一緒に 実習：小さな子どもや障害のある子ども楽しめるレク材を作成体験して楽しむ。 5 「手先を鍛えるレク・二人で向き合うレク」 実技：簡単な繰り返し作業でできた喜びを味わえる手芸的な活動体験 演習：卓上で二人で向き合いながらできる簡単なレク材の体験→自分なら・・・とアレンジ 1～5を振り返り、レポート作成・提出 6 「じゃんけんを楽しむレク・カードで楽しむレク」 実技：「じゃんけん」をして楽しむレク材を体験する。 実習：カードで楽しむレク材を体験→作成→皆で一緒に楽しむ。 7 「作って楽しむレク (1)」 講義：エコクラフトの意義・自分で工夫する楽しさ・材を集める等心がけておくこと 身近なエコ材料 実習：身近にある様々な材料を使って遊べるレク材を使った活動を体験→作成→皆で楽しむ。 8 「作って楽しむレク (2)」 講義：新聞紙等を使ったレク材の作品例と遊び方 実習：様々な遊び方ができるレク材を作成し、遊び方を工夫して楽しむ。 9 「上達していく自分を楽しむレク」 講義：いきなり難しい活動をするのではなく、対象者の興味・関心や心情に寄り添って易い難へ 実習：やればやるほど上達を感じて楽しめる活動を考える。→レク材作成 ※「8」の活動の仕上げをする。 10 「季節を感じて楽しむレク」 講義：季節ごとの掲示物やイベントを計画・作成・運営していく活動の意義 演習：自分が想定した場における劇発表の計画を練り、台本や用具を作成する。 自分が選んだ季節の掲示物を作成する。 6～10を振り返り、レポート作成・提出 11 「造形活動を楽しむレク (2)」 実習：ストローとモールを使ったオブジェを作って楽しむ。(安全管理) 折り紙を使って同様に。 演習：対象者を想定して、作成手順や安全な活動の仕方等の注意点をまとめる。 12 「GWTを体験しよう」 講義：GWTとは？卓上ゲームの楽しみ方 「卓上ゲームを楽しむレク」 実習：GWTを体験し、「振り返り」をする。「囲碁」「将棋」「トランプ」等の世界を知る。→皆で楽しむ。 13 「チャレンジ・ザ・ゲーム」 講義：「チャレンジ・ザ・ゲーム」の概要・意義・活用の仕方等 「ナイン・ブレイク」の遊び方 「少人数でも楽しめるレク」 実習：少人数でもできる活動の体験 「ナイン・ブレイク」の体験→身近な材料で作成 14 「子どもと楽しむレク」 実技：室内遊びの体験 身近な用具を使ったレク体験 「イベントを計画」 演習：室内で行う「お楽しみ会」の計画を立てる。※安全で楽しめる活動 ※人数 ※時間等想定 15 「認知症の方と楽しむレク」 講義：認知症の方とどのように接していくか どんなレク材を準備したら良いか 「まとめ」 実習：対象者を想定した安全で楽しいクラフト作成の計画を立て、講師と一緒に楽しむ。 講義：年間授業のまとめをする。これからの介護福祉士のあり方等を再確認→筆記試験		
【使用テキスト・参考文献】 ・授業担当者の作成資料・持参する文献		【単位認定の方法及び基準】 ・筆記試験の成績・提出させた課題の評価及び意欲的な取り組み・出席要件等を加味し、総合評価する。 (基準：60点以上を合格)

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類		授業担当者
介護の基本Ⅱ	(講義 演習 ・ 実習)		石田 里美
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
30回	60時間(4単位)	2年 前期	必修
【授業の目的・ねらい】 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。			
【授業全体の内容の概要】 介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。			
【授業終了時の達成課題(到達目標)】 ○多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割を機能を理解し説明できる。 ○介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や自己への対応を理解し説明できる。 ○介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解し説明できる。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】			
コマ数	授業内容		
1、2	オリエンテーション	1学年後期の復讐	
3、4	介護福祉を必要とする人の生活を支える仕組み	介護保険制度	
5、6	介護福祉を必要とする人の理解	障害者総合支援法①	
7、8	介護福祉を必要とする人の理解	障害者総合支援法②	
9、10	介護福祉を必要とする人の理解	インフォーマルサービスの種類	
11、12	介護福祉を必要とする人の理解	地域連携の目的・機関の理解	
13、14	介護福祉を必要とする人の理解	介護における安全の確保	
15、16	介護福祉を必要とする人の理解	リスクマネジメントとは	
17、18	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	感染症対策	
19、20	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	多職種連携・協働に求められる基本的な能力	
21、22	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	保健・医療・福祉職の役割と機能、多職種連携、協働の実際	
23、24	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	健康管理の意義と目的、こころの健康管理	
25、26	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	身体の健康管理、労働環境の整備	
27、28	まとめ 定期試験		
29、30	定期試験		
【使用テキスト・参考文献】 ・「介護の基本Ⅱ」(中央法規) ・作成したプリント		【単位認定の方法及び基準】 小テスト・定期試験の結果、及び意欲、出席要件等を考慮し、総合評価する(基準:60点以上を合格)	

授 業 ・ 概 要

授業のタイトル (科目名)	授業の種類		授業担当者
生活支援技術Ⅰ	(講義 ・ 演習)		伊藤 奈津希
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	30 時間 (2)	1年 前期	必修
[授業の目的・ねらい] 支援の必要な方の日常生活を理解し、その方の状態に合わせた適切な支援ができる知識や技術を習得する。 [授業全体の内容の概要] 生活支援における倫理観と利用者の尊厳を保持することの重要性を学び、その上で利用者の心身の状況に応じた生活支援技術を習得します。具体的には、安全で安楽な生活環境の整備、そして利用者の自立支援に向けた生活支援の展開について、講義と演習を通して体系的に学習します。 [授業修了時の達成課題 (到達目標)] 倫理観と尊厳保持に基づいた適切な介護実践、利用者の心身状況に合わせた安全で安楽な生活支援技術の実践、自立支援のための適切な生活環境整備、根拠に基づく自立に向けた生活支援実施ができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 - 生活とは、根拠に基づく生活支援技術とは① - 根拠に基づく生活支援技術とは② - 自立した移動とは① - 自立した移動とは② - 自立した移動とは③ - 自立した移動とは④ - 自立した移動とは⑤ - 利用者を理解するための I C F の視点 - 利用者主体の生活支援技術の実践に向けて - 自立に向けた身支度の介護 - 生活支援とチームアプローチ - 自立に向けた食事の介護 - 自立に向けた食事の介護 - まとめ - 定期試験			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
- 生活支援技術Ⅰ (中央法規) - 作成したプリント		試験成績、確認テスト、課題及び意欲、出席要件等を加味し総合評価とする。(基準: 60点以上を合格とする)	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名)	授業の種類		授業担当者
生活支援技術Ⅱ	(講義 ・ 演習)		伊藤 奈津希
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
30回	60 時間 (4)	1年 前期	必修
【授業のねらい・目的】 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。 【授業全体の内容の概要】 ICFの視点を生活に生かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、清潔保持、排せつ、家事、休息、睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。 【授業修了時の達成課題 (到達目標)】 ・対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力が身につくようにする。 ・生活の豊かさや心身の活性化⁷⁾、自立支援のための居住空間の整備について基礎的な知識を理解できる。 【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 1.2 ガイダンス 3.4 寝具の整え方 5.6 自立に向けた移動の介護①② 7.8 自立に向けた移動の介護③④ 9.10 自立に向けた移動の介護⑤⑥ 11.12 自立に向けた移動の介護⑦⑧ 13.14 自立に向けた移動の介護⑨⑩ 15.16 自立に向けた移動の介護⑪⑫ 17.18 自立に向けた移動の介護⑬⑭ 19.20 自立に向けた身支度の介護①② 21.22 自立に向けた身支度の介護③④ 23.24 自立に向けた食事の介護①② 25.26 自立に向けた食事の介護③④ 27.28 実技演習まとめ 30.31 期末試験 (実技)			
【使用テキスト・参考文献】		【単位認定の方法及び基準】	
・生活支援技術Ⅱ (中央法規) ・作成したプリント		試験成績、確認テスト、課題及び意欲、出席要件等を加味し総合評価とする。(基準: 60点以上を合格とする)	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類		授業担当者
生活支援技術Ⅲ	（ 講義 ・ 演習 ）		伊藤 奈津希
授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
10回	20 時間	2年 前期	必修
[授業の目的・ねらい] 生活支援技術Ⅰ・Ⅱで学んだ知識・技術を基盤とし、より複雑な状況にある利用者への生活支援技術を習得することを目的とします。 [授業全体の内容の概要] ・実際の事例を通して、アセスメントから支援計画、実践、評価までの一連の過程を学ぶ。 ・講義、演習、事例検討を通して、より専門性の高い生活支援技術を体系的に学びます。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] ・多様な生活課題を抱える利用者の状況を的確にアセスメントし、個別性の高い支援計画を立案できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1.2 状態に応じた支援① 3.4 状態に応じた支援① 5.6 事例を通して、アセスメントから支援計画、実践、評価までの一連の過程を学ぶ 7.8 事例を通して、アセスメントから支援計画、実践、評価までの一連の過程を学ぶ 9.10 事例を通して、アセスメントから支援計画、実践、評価までの一連の過程を学ぶ			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
・作成したプリント		試験成績、確認テスト、課題及び意欲、出席要件等を加味し総合評価とする。（基準：60点以上を合格とする）	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 生活支援技術Ⅲ (点字)	授業の種類 (講義 演習 ・ 実習)		授業担当者 井 口 二 郎
授業の回数 8 回	時間数 (単位) 1 6 時間	配当学年・時間 2 年 前期	必修・選択 必 修
[授業の目的・ねらい] 視覚障害の概念、定義、分類について学ぶ。 [授業全体の内容の概要] 視覚障害の原因による眼疾患とその見え方について学ぶ。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 視覚障害について、その概要を理解し、適切な対応につなげることができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 視覚障害の概念、定義、分類について学ぶ。 2 視覚障害の原因による眼疾患とその見え方について学ぶ。 3 視覚障害からもたらされる困難さを軽減するためにどのような取り組みを行うのかを学ぶ。 4 弱視児の視覚認知を学び、様々な補助具を使用した教育方法を学ぶ。 5 視覚障害者が自立して歩行するための方法について学ぶ。 6 点字の成り立ち、点字の構成など点字とはどのようなものかを理解する。 7 点字の読みと書きを実地を通して理解し、目で読めるようにする。 8 定期試験。総合練習の問題を通して行う。			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
「片手で2匹つかんだよ～視覚障害教育を初めて学ぶ方のためのテキスト」著者 井口二郎 出版社 白鷗社		試験成績・課題及び意欲、出席要件などを加味し総合評価する。 (基準：60点以上)	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 生 活 支 援 技 術 Ⅲ ケア・アート・プログラム（造形）	授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 槇 英子
授業の回数 1 2 回	授業数（単位数） 2 4 時間	配当学年・時期 2 年・前期	必修・選択
[授業の目的・ねらい] 社会福祉の中で、どのようにアートを取り入れ利用者を支援できるか、自らの造形経験を通して、ケア・アート・プログラムを考えられる態度と基礎知識を身につける。 [授業全体の内容の概要] ケア・アートに関わるものを自ら手を動かし創る事で、材料・道具の取り扱い、技術を獲得する為の活動となっている。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] アートが人に与える力を体感し、造形美術表現による自己の回復を援助する事ができる、知識と経験を獲得する事を到達目標とする。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 オリエンテーション・用具配布 色と形で自己表現：切り紙 2 仕上げ：壁面装飾作り 3 技法による表現Ⅰ：フロタージュ・マーブリング・デカルコマニー 4 ：スタンピング・ステンシル 5 技法による表現Ⅱ：貼り絵（花をモチーフにして） 6 ：コラージュ（雑誌を使って） 7 カード作り：今まで作った素材を使って 8 ：仕上げ 9 毛糸を使って：段ボールでつくる手織もの・指編み 1 0 ：仕上げ 1 1 パネル・アート：心の表現 1 2 まとめ：展示と相互鑑賞			
各授業を通して、活動内容の意義と展開方法の説明と実技。 (教師作成プリントを必要に応じて配布)		[単位認定の方法及び基準] 課題成績及び意欲、出席要件等を加味し、総合評価する。(基準：6 0 点以上を合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者																																															
介護過程Ⅰ		(講義 ・ 演習 ・ 実習)	土屋 奈穂子																																															
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択																																															
15	30(1)単位	1年 ・ 前期	必修																																															
[授業の目的・ねらい] 介護過程の意義目的を理解し、介護過程の全体像を把握する。ICFを理解し、客観的・多角的な視点から利用者をアセスメントする必要性を学ぶことができる。 [授業全体の内容の概要] 利用者支援において客観的かつ多角的な視点での観察力や考察力の必要性を学ぶ。事例を通じ、アセスメントに必要な情報収集方法や情報の関連付けを理解する。個人ワークやグループワークを通じ、様々な視点や意見に触れ理解を深めることができる。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 介護過程の意義目的を理解し、ICFの視点から客観的・多角的なアセスメントが出来る。ワークや事例検討を通じて利用者の生活課題を導き出すことができる。																																																		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] <table><tr><td colspan="2">コマ数</td></tr><tr><td>1</td><td>ガイダンス</td></tr><tr><td>2</td><td>介護過程の意義①</td></tr><tr><td>3</td><td>介護過程の意義②</td></tr><tr><td>4</td><td>介護過程の意義③</td></tr><tr><td>5</td><td>介護過程の意義④</td></tr><tr><td>6</td><td>介護過程の意義④</td></tr><tr><td>7</td><td>介護過程の理解①</td></tr><tr><td>8</td><td>介護過程の理解②</td></tr><tr><td>9</td><td>介護過程の理解③</td></tr><tr><td>10</td><td>介護過程の理解④</td></tr><tr><td>11</td><td>介護過程の理解⑤</td></tr><tr><td>12</td><td>介護過程の意義⑥</td></tr><tr><td>13</td><td>介護過程の意義⑦</td></tr><tr><td>14</td><td>まとめ・振り返り</td></tr><tr><td>15</td><td>定期試験</td></tr></table> <table><tr><td>介護過程とは</td></tr><tr><td>介護過程の意義・目的・全体像の把握</td></tr><tr><td>ICFの理解</td></tr><tr><td>アセスメントとは 事例ワーク</td></tr><tr><td>アセスメントとは 事例ワーク</td></tr><tr><td>情報収集の種類と方法・コミュニケーション</td></tr><tr><td>情報収集の種類と方法・コミュニケーション</td></tr><tr><td>情報収集の種類と方法・コミュニケーション</td></tr><tr><td>介護過程の展開・アセスメントの思考方法</td></tr><tr><td>介護過程の展開・アセスメントの思考方法</td></tr><tr><td>介護過程の展開・アセスメントの思考方法</td></tr><tr><td>介護過程の展開・アセスメントの思考方法</td></tr><tr><td>介護過程の展開・アセスメントの思考方法</td></tr><tr><td>まとめ・前期授業振り返り・後期授業に向けて</td></tr><tr><td>定期試験・定期試験解説</td></tr></table>				コマ数		1	ガイダンス	2	介護過程の意義①	3	介護過程の意義②	4	介護過程の意義③	5	介護過程の意義④	6	介護過程の意義④	7	介護過程の理解①	8	介護過程の理解②	9	介護過程の理解③	10	介護過程の理解④	11	介護過程の理解⑤	12	介護過程の意義⑥	13	介護過程の意義⑦	14	まとめ・振り返り	15	定期試験	介護過程とは	介護過程の意義・目的・全体像の把握	ICFの理解	アセスメントとは 事例ワーク	アセスメントとは 事例ワーク	情報収集の種類と方法・コミュニケーション	情報収集の種類と方法・コミュニケーション	情報収集の種類と方法・コミュニケーション	介護過程の展開・アセスメントの思考方法	介護過程の展開・アセスメントの思考方法	介護過程の展開・アセスメントの思考方法	介護過程の展開・アセスメントの思考方法	介護過程の展開・アセスメントの思考方法	まとめ・前期授業振り返り・後期授業に向けて	定期試験・定期試験解説
コマ数																																																		
1	ガイダンス																																																	
2	介護過程の意義①																																																	
3	介護過程の意義②																																																	
4	介護過程の意義③																																																	
5	介護過程の意義④																																																	
6	介護過程の意義④																																																	
7	介護過程の理解①																																																	
8	介護過程の理解②																																																	
9	介護過程の理解③																																																	
10	介護過程の理解④																																																	
11	介護過程の理解⑤																																																	
12	介護過程の意義⑥																																																	
13	介護過程の意義⑦																																																	
14	まとめ・振り返り																																																	
15	定期試験																																																	
介護過程とは																																																		
介護過程の意義・目的・全体像の把握																																																		
ICFの理解																																																		
アセスメントとは 事例ワーク																																																		
アセスメントとは 事例ワーク																																																		
情報収集の種類と方法・コミュニケーション																																																		
情報収集の種類と方法・コミュニケーション																																																		
情報収集の種類と方法・コミュニケーション																																																		
介護過程の展開・アセスメントの思考方法																																																		
介護過程の展開・アセスメントの思考方法																																																		
介護過程の展開・アセスメントの思考方法																																																		
介護過程の展開・アセスメントの思考方法																																																		
介護過程の展開・アセスメントの思考方法																																																		
まとめ・前期授業振り返り・後期授業に向けて																																																		
定期試験・定期試験解説																																																		
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 介護過程 作成したプリント		[単位認定の方法及び基準] 原稿作成、意欲、発表態度、出欠要件等を考慮し、総合評価する (基準:60点以上を合格とする)																																																

授 業 概 要

授業のタイトル（科目）		授業の種類		授業担当者	
介護過程Ⅲ		（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）		土屋 奈穂子	
授業の回数		時間数（単位数）		配当学年・時期	
30		30（1）単位		2年 ・ 前期	
				必修・選択	
				必修	
[授業の目的・ねらい]					
利用者のニーズに応じた計画立案・実施・評価を通じて介護過程の一連の流れを理解できる。自身のアセスメントを振り返り、客観的事実を基に多角的に情報を得て分析する必要性と重要性を理解する。					
[授業全体の内容の概要]					
実習対象者のアセスメント振り返りを行い、修正・改善点を見出す。対象者の計画立案・実施・評価の流れを通じ、介護過程の一連の流れを理解することができる。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
利用者の個別性に応じた介護過程の展開を理解し実践できる					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1		ガイダンス		介護過程Ⅲについて/前年度の振り返り	
2		介護過程の展開 ①		介護計画の立案について	
3		介護過程の展開 ②		介護実習2 対象者のアセスメント見直し	
4		介護過程の展開 ③		介護実習2 対象者のアセスメント見直し	
5		介護過程の展開 ④		介護実習2 対象者の計画立案	
6		介護過程の展開 ⑤		介護実習2 対象者の計画立案	
7		介護過程の展開 ⑥		介護実習2 対象者の計画立案	
8		介護過程の展開 ⑦		介護計画 実施について	
9		介護過程の展開 ⑧		介護計画 実施・実施準備	
10		介護過程の展開 ⑨		介護計画 経過記録記入方法	
11		介護過程の展開 ⑩		計画実施後の評価	
12		介護過程の展開 ⑪		計画実施後の評価	
13		介護過程の展開 ⑫		評価を踏まえた介護計画の修正	
14		介護過程の展開 ⑬		評価を踏まえた介護計画の修正と再実施	
15		介護過程の展開 ⑭		事例① 利用者の状況・状態に応じた介護過程展開の実際 事例概要 情報収集	
[使用テキスト・参考文献]				[単位認定の方法及び基準]	
中央法規出版					
介護過程 作成したプリント				原稿作成、意欲、発表態度、出欠要件等を考慮し、総合評価する（基準：60点以上を合格とする）	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 土屋 奈穂子																																																												
授業の回数 30	時間数(単位数) 30(1)単位	配当学年・時期 2年 ・ 前期	必修・選択 必修																																																												
[授業の目的・ねらい] 利用者のニーズに応じた計画立案・実施・評価を通じて介護過程の一連の流れを理解できる。自身のアセスメントを振り返り、客観的事実を基に多角的に情報を得て分析する必要性と重要性を理解する。 [授業全体の内容の概要] 実習対象者のアセスメント振り返りを行い、修正、改善点を見出す。対象者の計画立案・実施・評価の流れを通じ、介護過程の一連の流れを理解することができる。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 利用者の個別性に応じた介護過程の展開を理解し実践できる																																																															
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 <table border="1"> <tbody> <tr> <td>16</td><td>介護過程の展開</td><td>⑯</td><td>事例① 情報収集・分析</td></tr> <tr> <td>17</td><td>介護過程の展開</td><td>⑰</td><td>事例① 情報分析・関連付け・統合化</td></tr> <tr> <td>18</td><td>介護過程の展開</td><td>⑱</td><td>事例① 課題明確化</td></tr> <tr> <td>19</td><td>介護過程の展開</td><td>⑲</td><td>事例① 介護計画立案</td></tr> <tr> <td>20</td><td>介護過程の展開</td><td>⑳</td><td>事例① 介護計画立案</td></tr> <tr> <td>21</td><td>介護過程の展開</td><td>㉑</td><td>事例① 実施・評価</td></tr> <tr> <td>22</td><td>介護過程の展開</td><td>㉒</td><td>事例① 実施・評価 振り返り</td></tr> <tr> <td>23</td><td>介護過程の展開</td><td>㉓</td><td>事例② 情報収集</td></tr> <tr> <td>24</td><td>介護過程の展開</td><td>㉔</td><td>事例② 情報収集・関連付け</td></tr> <tr> <td>25</td><td>介護過程の展開</td><td>㉕</td><td>事例② 情報関連付け・統合・課題の明確化</td></tr> <tr> <td>26</td><td>介護過程の展開</td><td>㉖</td><td>事例② 計画立案</td></tr> <tr> <td>27</td><td>介護過程の展開</td><td>㉗</td><td>事例② 実施・評価・計画修正</td></tr> <tr> <td>28</td><td>介護過程の展開</td><td>㉘</td><td>事例② 評価・計画修正後の再実施</td></tr> <tr> <td>29</td><td>定期試験</td><td></td><td>定期試験</td></tr> <tr> <td>30</td><td>振り返り</td><td></td><td>後期まとめ・介護過程Ⅳに向けて</td></tr> </tbody> </table>				16	介護過程の展開	⑯	事例① 情報収集・分析	17	介護過程の展開	⑰	事例① 情報分析・関連付け・統合化	18	介護過程の展開	⑱	事例① 課題明確化	19	介護過程の展開	⑲	事例① 介護計画立案	20	介護過程の展開	⑳	事例① 介護計画立案	21	介護過程の展開	㉑	事例① 実施・評価	22	介護過程の展開	㉒	事例① 実施・評価 振り返り	23	介護過程の展開	㉓	事例② 情報収集	24	介護過程の展開	㉔	事例② 情報収集・関連付け	25	介護過程の展開	㉕	事例② 情報関連付け・統合・課題の明確化	26	介護過程の展開	㉖	事例② 計画立案	27	介護過程の展開	㉗	事例② 実施・評価・計画修正	28	介護過程の展開	㉘	事例② 評価・計画修正後の再実施	29	定期試験		定期試験	30	振り返り		後期まとめ・介護過程Ⅳに向けて
16	介護過程の展開	⑯	事例① 情報収集・分析																																																												
17	介護過程の展開	⑰	事例① 情報分析・関連付け・統合化																																																												
18	介護過程の展開	⑱	事例① 課題明確化																																																												
19	介護過程の展開	⑲	事例① 介護計画立案																																																												
20	介護過程の展開	⑳	事例① 介護計画立案																																																												
21	介護過程の展開	㉑	事例① 実施・評価																																																												
22	介護過程の展開	㉒	事例① 実施・評価 振り返り																																																												
23	介護過程の展開	㉓	事例② 情報収集																																																												
24	介護過程の展開	㉔	事例② 情報収集・関連付け																																																												
25	介護過程の展開	㉕	事例② 情報関連付け・統合・課題の明確化																																																												
26	介護過程の展開	㉖	事例② 計画立案																																																												
27	介護過程の展開	㉗	事例② 実施・評価・計画修正																																																												
28	介護過程の展開	㉘	事例② 評価・計画修正後の再実施																																																												
29	定期試験		定期試験																																																												
30	振り返り		後期まとめ・介護過程Ⅳに向けて																																																												
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 介護過程 作成したプリント		[単位認定の方法及び基準] 原稿作成、意欲、発表態度、出欠要件等を考慮し、総合評価する (基準:60点以上を合格とする)																																																													

授業概要

授業のタイトル (科目名)	授業の種類		授業担当者
介護総合演習 I	講義 ・ 演習 ・ 実習		専任教員
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (1)	1年 ・ 前期	必修
[授業の目的・ねらい] 実習の教育効果を上げるため、介護実習前に介護技術の確認を行う。また、実習先のオリエンテーションをうけるための計画・準備を進めるなど、実習に対する総合的な学習とする。 [授業全体の内容の概要] 実習のテキストや実習の手引きを参考に、介護実習全般について学び、実習方法や記録の書き方を学習する。また、介護現場について学ぶ。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ○「介護総合演習」は「介護実習」との組み合わせの学びであることを理解する。 ○介護実習 I において、課題・目標の達成方法を習得できるようにする。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 - ガイダンス/2年間の実習について/実習調書について - 施設の理解 - 実習施設の理解/配属先発表/個人票説明、下書き作成 - 個人票清書作成 - 個人票完成/実習先の行き方確認 - 接遇について/事前電話の仕方について - 実習日誌の書き方/身だしなみチェック - 実習の心得/報告会 (原稿：感想) について - 報告会資料下書き作成 - 報告会発表原稿作成・発表の仕方 - 実習 4 - ① 報告会 - 介護実習 4 - ① 評価返却/実習施設の理解 - 実習 I 配属先発表/個人票作成 - 個人票完成/実習先の行き方確認 - 期末試験 (見極めテスト)			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
中央法規出版 「介護総合演習・介護実習」		試験成績・課題及び意欲、提出物、出席要件等を加味し、総合評価する (基準：60 点以上を合格とする)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目)	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 専任教員
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学年・時期 2年 ・ 前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 介護実習2の課題であるアセスメントを振り返り、実習報告会で発表し、体験を共有する。また、介護過程の展開を実践するためのアセスメント方法を学び直す。介護実習4-②、3について実習前の準備ができる。 [授業全体の内容の概要] 介護実習2で行ったアセスメントを報告会にて発表する。また、介護過程実践の準備として発表会において計画を実施する。 介護実習4-②・3について実習前の準備ができる。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] ○「介護総合演習」は「介護実習」との組み合わせの学びであることを理解する。 ○介護実習4-②、介護実習3において、課題・目標の達成方法を習得できるようにする。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 ガイダンス / 実習2報告会について / 原稿下書き確認・修正 2 介護実習2 報告会原稿の作成 3 介護実習2 報告会原稿清書完成 4 介護実習2 報告会原稿清書完成 / 発表原稿作成 / 会場準備 5 介護実習2 報告会 6 介護実習2 振り返り / アセスメントの見直し 7 介護実習2 振り返り 介護計画立案・実施について 8 介護実習2 振り返り 対象者のニーズに応じた介護計画立案 9 介護実習2 振り返り 介護計画発表会 10 介護実習2 評価返却 / 介護実習4-②・3 配属発表 個人票作成 11 介護実習4-②・3 個人票完成 / 施設概要作成 12 介護実習4-②・3 施設概要作成 / 実習施設の理解 13 介護実習4-②・3について / 実習施設の理解 14 見極めテスト 筆記(介護過程・接遇マナー) 15 事前指導			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 「介護総合演習・介護実習」 実習の手引き・作成したプリント		[単位認定の方法及び基準] 試験成績・課題及び意欲、提出物、出席要件等を加味し、総合評価する。(基準:60点以上を合格とする)	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） こころとからだのしくみⅠ-1	授業の種類 (<u>講義</u> ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 菅谷 由美子																																													
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（2単位）	配当学年・時期 1年 前期	必修・選択 必修																																													
【授業の目的・ねらい】 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する。 【授業全体の内容の概要】 介護実践の根拠となる人体の構造や機能を学ぶ。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 からだのしくみが理解できる。																																																
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 <table border="0"> <tr> <td>1 オリエンテーション</td> <td>からだのしくみの理解①</td> <td>からだのつくりの理解</td> </tr> <tr> <td>2 からだのしくみの理解②</td> <td>人体の構造と機能</td> <td>細胞・組織・器官・器官系</td> </tr> <tr> <td>3 からだのしくみの理解③</td> <td>脳・神経</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4 からだのしくみの理解④</td> <td>感覚器系（視覚器・平衡聴覚器・嗅覚器・味覚器・皮膚）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5 からだのしくみの理解⑤</td> <td>呼吸器系</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6 からだのしくみの理解⑥</td> <td>循環器系（心臓）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7 からだのしくみの理解⑦</td> <td>循環器系（血管系・リンパ系）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8 からだのしくみの理解⑧</td> <td>消化器系（消化管）</td> <td>消化器系（消化腺）</td> </tr> <tr> <td>9 からだのしくみの理解⑨</td> <td>腎・泌尿器系</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10 からだのしくみの理解⑩</td> <td>からだのしくみの理解⑫</td> <td>骨・筋肉 骨・関節</td> </tr> <tr> <td>11 からだのしくみの理解⑫</td> <td>筋肉 神経系</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12 からだのしくみの理解⑬</td> <td>生殖器・内分泌</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13 からだのしくみの理解⑭</td> <td>血液・体液・リンパ液</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14 まとめ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15 試験・振り返り</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				1 オリエンテーション	からだのしくみの理解①	からだのつくりの理解	2 からだのしくみの理解②	人体の構造と機能	細胞・組織・器官・器官系	3 からだのしくみの理解③	脳・神経		4 からだのしくみの理解④	感覚器系（視覚器・平衡聴覚器・嗅覚器・味覚器・皮膚）		5 からだのしくみの理解⑤	呼吸器系		6 からだのしくみの理解⑥	循環器系（心臓）		7 からだのしくみの理解⑦	循環器系（血管系・リンパ系）		8 からだのしくみの理解⑧	消化器系（消化管）	消化器系（消化腺）	9 からだのしくみの理解⑨	腎・泌尿器系		10 からだのしくみの理解⑩	からだのしくみの理解⑫	骨・筋肉 骨・関節	11 からだのしくみの理解⑫	筋肉 神経系		12 からだのしくみの理解⑬	生殖器・内分泌		13 からだのしくみの理解⑭	血液・体液・リンパ液		14 まとめ			15 試験・振り返り		
1 オリエンテーション	からだのしくみの理解①	からだのつくりの理解																																														
2 からだのしくみの理解②	人体の構造と機能	細胞・組織・器官・器官系																																														
3 からだのしくみの理解③	脳・神経																																															
4 からだのしくみの理解④	感覚器系（視覚器・平衡聴覚器・嗅覚器・味覚器・皮膚）																																															
5 からだのしくみの理解⑤	呼吸器系																																															
6 からだのしくみの理解⑥	循環器系（心臓）																																															
7 からだのしくみの理解⑦	循環器系（血管系・リンパ系）																																															
8 からだのしくみの理解⑧	消化器系（消化管）	消化器系（消化腺）																																														
9 からだのしくみの理解⑨	腎・泌尿器系																																															
10 からだのしくみの理解⑩	からだのしくみの理解⑫	骨・筋肉 骨・関節																																														
11 からだのしくみの理解⑫	筋肉 神経系																																															
12 からだのしくみの理解⑬	生殖器・内分泌																																															
13 からだのしくみの理解⑭	血液・体液・リンパ液																																															
14 まとめ																																																
15 試験・振り返り																																																
【使用テキスト・参考文献】 中央法規出版 こころとからだのしくみ		【単位認定の方法及び基準】 ノート提出、小テスト・定期試験の結果、及び意欲、出席要件等を考慮し、総合評価とします。 （基準：60点以上を合格）																																														

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名)	授業の種類		授業担当者
こころとからだのしくみ I-2	(講義 演習 ・ 実習)		井上 典子
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	30 (2)	1年・前期	必須
[授業の目的・ねらい] 介護の技術の根拠となる人間の心理的側面について理解する。特に、人間の欲求の基本的な理解や感情、思考等について学び、QOLを高めるような生活支援ができるための基礎的知識を習得する。また、こころとからだは相互に影響しあい、意欲や行動などに影響を及ぼしていることを学習する。 [授業全体の内容の概要] 人間を理解する上で大切な精神医学や心理学、社会学などをもとに基礎的な知識を学ぶ。また『健康』の意味や『発達』の観点を身につけ、加齢やさまざまな疾患・障害によってどのような生活障害が生じるのかを理解するための基礎を学ぶ。講義を中心に、適宜、ビデオ学習やディスカッション、課題レポートの提出を求める。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] 1) 「こころ」のしくみについての基礎的知識を身につける 2) 「こころ」の日常生活への影響についての基礎的知識を身につける 3) こころとからだのしくみを理解した上で、介護場面でのさまざまな配慮や安全の観点を身につける			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 導入 「健康」とはなにか 定義とそれぞれの健康観 2. こころのしくみの理解 について 「わたし」とは何か 3. こころのしくみの理解 について 「欲求」「自己実現と尊厳」について 4. こころのしくみの理解 について 「脳のしくみ」について 5. こころのしくみの理解 について 「感覚・知覚」について 6. こころのしくみの理解 について 「認知のしくみ」について 7. こころのしくみの理解 について 「知能」について 8. こころのしくみの理解 について 「記憶と学習のしくみ」について 9. こころのしくみの理解 について 「思考のしくみ」について 10. こころのしくみの理解 について 「感情・情動のしくみ」について 11. こころのしくみの理解 について 「意欲・動機づけのしくみ」について 12. こころのしくみの理解 について 「適応のしくみ」について① ストレスのしくみと適応の異常 13. こころのしくみの理解 について 「適応のしくみ」について② 人格と適応 14. こころのしくみの理解 について 「心理アセスメント・心理療法」について 15. まとめと考査 (定期試験)			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 こころとからだのしくみ ※参考文献 経済界ワークシート式 はじめての心理学 著者 井上のり子 ※ 適宜、プリントを配布し、課題を課す		[単位認定の方法及び基準] 成績評価基準 (評価割合を%表示) 定期試験 50% レポート 30% 授業態度 20% (基準: 60点以上合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） こころとからだのしくみⅢ	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 菅谷 由美子
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（2単位）	配当学年・時期 2年 前期	必修・選択 必修
【授業の目的・ねらい】 介護技術の根拠となる人体の構造や機能を理解のもと、介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。			
【授業全体の内容の概要】 人体の構造や機能についての基本的な知識をふまえ、意欲や行動などに影響を及ぼす心理的な影響を理解し、それらが日常生活動作にどのように関連してくるのかを認識する。			
【授業修了時の達成課題（到達目標）】 日常生活動作に関連したこころとからだのしくみが理解できる。			
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1 オリエンテーション 2 排泄に関連したしくみ 3 排泄に関連したしくみ 4 排泄に関連したしくみ 5 排泄に関連したしくみ 6 休息・睡眠に関連したしくみ 7 休息・睡眠に関連したしくみ 8 休息・睡眠に関連したしくみ 9 人生の最終段階のケアに関連したしくみ 10 人生の最終段階のケアに関連したしくみ 11 人生の最終段階のケアに関連したしくみ 12 人生の最終段階のケアに関連したしくみ 13 人生の最終段階のケアに関連したしくみ 14 まとめ 15 試験・振り返り			
【使用テキスト・参考文献】 中央法規 こころとからだのしくみ		【単位認定の方法及び基準】 ノート提出、小テスト・定期テスト、授業への意欲、出席要件等を加味し、総合評価とします。 (基準：60点以上を合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類		授業担当者
認知症の理解Ⅰ	（ 講義 ）		岩出 義隆
授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
15	30時間（2）	1年 前期	必修
[授業の目的・ねらい] 認知症に関する基礎知識を獲得し、症状や歴史・理念を学ぶ [授業全体の内容の概要] 認知症の基本的な知識を学び、症状に合わせた対応を身に着ける。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 認知症を理解し、症状や状況に合わせた対応ができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 4/15 認知症のある高齢者の現状と今後 認知症とは何か 2 4/22 脳のしくみ 3 5/13 認知症の人の心理 4 5/20 中核症状の理解 5 5/26 生活障害の理解 6 5/27 認知症の診断と重症度 7 6/10 BPSDの理解① 8 6/10 BPSDの理解② 9 6/16 認知症の原因疾患と症状・生活障害 10 6/17 認知症の治療薬 11 6/24 認知症の予防 12 7/1 認知症の人を取り巻く状況 13 7/8 認知症ケアの理念と支店 14 7/15 認知症当事者の視点からみえるもの 15 7/22 試験			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
中央法規出版「介護福祉士養成講座」 13 認知症の理解		試験 80%。授業態度・提出物 20%	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 障害の理解Ⅱ		授業の種類 (講義) 演習・実習	授業担当者 菅谷 由美子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（2単位）	配当学年・時期 2年 前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を学習する。 [授業全体の内容の概要] 障害の医学的・心理的側面の基礎的な知識、家族への支援について学習する。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] ・医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解することができる。 ・障害のある人を支える家族の課題について理解することができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 オリエンテーション 【障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ】 肢体不自由（運動機能障害）① 2 肢体不自由（運動機能障害）② 3 内部障害（心臓機能障害） 4 内部障害（呼吸器機能障害） 5 内部障害（腎機能障害） 6 内部障害（膀胱・直腸機能障害） 7 内部障害（小腸機能障害） 8 内部障害 (ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害) 9 内部障害（肝機能障害） 10 重症心身障害 11 【障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ】 難病① 12 難病② 13 【家族への支援】 家族への支援とは/家族の介護力の評価と介護負担の軽減 14 まとめ 15 試験・振り返り			
[使用テキスト・参考文献] 障害の理解（中央法規）		[単位認定の方法及び基準] ノート提出、確認テスト、授業態度、出席要件等を加味し、総合評価とします。 (基準：60点以上を合格)	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 医療的ケア	授業の種類 (<u>講義</u> ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 菅谷 由美子																																																																								
授業の回数 24回	時間数（単位数） 36時間（2単位）	配当学年・時期 2年 前期	必修・選択 必修																																																																								
【授業の目的・ねらい】 喀痰吸引・経管栄養に必要な人体の構造と機能（小児を含む）を理解する。 急変状態へ対応するための基礎知識を習得する。 【授業全体の内容の概要】 喀痰吸引に必要な呼吸器における基礎知識を学ぶ。 経管栄養に必要な消化器における基礎知識を学ぶ。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 呼吸器・消化器の基礎知識を習得する。																																																																											
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 <table><tr><td>1</td><td>高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」</td><td>①呼吸のしくみとはたらき</td></tr><tr><td>2</td><td>〃</td><td>②いつもと違う呼吸状態</td></tr><tr><td>3</td><td>〃</td><td>③喀痰吸引とは？</td></tr><tr><td>4</td><td>〃</td><td>④人工呼吸器と吸引</td></tr><tr><td>5</td><td>〃</td><td>⑤子どもの吸引⑥利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意</td></tr><tr><td>6</td><td>〃</td><td>⑦呼吸器系の感染と予防（吸引と関連して）</td></tr><tr><td>7</td><td>〃</td><td>⑧喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認</td></tr><tr><td>8</td><td>〃</td><td>⑨急変・事故発生時の対応と事前対策</td></tr><tr><td>9</td><td>「喀痰吸引」の実施の手順と留意点</td><td>①用いる器具と・機材とそのしくみ、清潔の保持</td></tr><tr><td>10</td><td>〃</td><td>②吸引の技術と留意点</td></tr><tr><td>11</td><td>〃</td><td>③喀痰吸引にともなうケア</td></tr><tr><td>12</td><td>〃</td><td>④報告および記録</td></tr><tr><td>13</td><td>「高齢者および障害児・者の「経管栄養」</td><td>①消化器系のしくみとはたらき</td></tr><tr><td>14</td><td>〃</td><td>②消化・吸収とよくある消化器の症状</td></tr><tr><td>15</td><td>〃</td><td>③経管栄養とは</td></tr><tr><td>16</td><td>〃</td><td>④注入する内容に関する知識</td></tr><tr><td>17</td><td>〃</td><td>⑤経管栄養実施上の留意点</td></tr><tr><td>18</td><td>〃</td><td>⑥子どもの経管栄養について⑦利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意</td></tr><tr><td>19</td><td>〃</td><td>⑧経管栄養に関する感染と予防⑨生じる危険、注入後の安全確認</td></tr><tr><td>20</td><td>〃</td><td>⑩急変・事故発生時の対応と事前対策</td></tr><tr><td>21</td><td>「経管栄養」の手順と留意点</td><td>①用いる機材とそのしくみ、清潔の保持</td></tr><tr><td>22</td><td>〃</td><td>②経管栄養の技術と留意点</td></tr><tr><td>23</td><td>〃</td><td>③経管栄養に必要なケア</td></tr><tr><td>24</td><td>〃</td><td>④報告および記録</td></tr></table> ※筆記試験…講義全体の総合試験 30問 60分 4肢択一				1	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」	①呼吸のしくみとはたらき	2	〃	②いつもと違う呼吸状態	3	〃	③喀痰吸引とは？	4	〃	④人工呼吸器と吸引	5	〃	⑤子どもの吸引⑥利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意	6	〃	⑦呼吸器系の感染と予防（吸引と関連して）	7	〃	⑧喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認	8	〃	⑨急変・事故発生時の対応と事前対策	9	「喀痰吸引」の実施の手順と留意点	①用いる器具と・機材とそのしくみ、清潔の保持	10	〃	②吸引の技術と留意点	11	〃	③喀痰吸引にともなうケア	12	〃	④報告および記録	13	「高齢者および障害児・者の「経管栄養」	①消化器系のしくみとはたらき	14	〃	②消化・吸収とよくある消化器の症状	15	〃	③経管栄養とは	16	〃	④注入する内容に関する知識	17	〃	⑤経管栄養実施上の留意点	18	〃	⑥子どもの経管栄養について⑦利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意	19	〃	⑧経管栄養に関する感染と予防⑨生じる危険、注入後の安全確認	20	〃	⑩急変・事故発生時の対応と事前対策	21	「経管栄養」の手順と留意点	①用いる機材とそのしくみ、清潔の保持	22	〃	②経管栄養の技術と留意点	23	〃	③経管栄養に必要なケア	24	〃	④報告および記録
1	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」	①呼吸のしくみとはたらき																																																																									
2	〃	②いつもと違う呼吸状態																																																																									
3	〃	③喀痰吸引とは？																																																																									
4	〃	④人工呼吸器と吸引																																																																									
5	〃	⑤子どもの吸引⑥利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意																																																																									
6	〃	⑦呼吸器系の感染と予防（吸引と関連して）																																																																									
7	〃	⑧喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認																																																																									
8	〃	⑨急変・事故発生時の対応と事前対策																																																																									
9	「喀痰吸引」の実施の手順と留意点	①用いる器具と・機材とそのしくみ、清潔の保持																																																																									
10	〃	②吸引の技術と留意点																																																																									
11	〃	③喀痰吸引にともなうケア																																																																									
12	〃	④報告および記録																																																																									
13	「高齢者および障害児・者の「経管栄養」	①消化器系のしくみとはたらき																																																																									
14	〃	②消化・吸収とよくある消化器の症状																																																																									
15	〃	③経管栄養とは																																																																									
16	〃	④注入する内容に関する知識																																																																									
17	〃	⑤経管栄養実施上の留意点																																																																									
18	〃	⑥子どもの経管栄養について⑦利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意																																																																									
19	〃	⑧経管栄養に関する感染と予防⑨生じる危険、注入後の安全確認																																																																									
20	〃	⑩急変・事故発生時の対応と事前対策																																																																									
21	「経管栄養」の手順と留意点	①用いる機材とそのしくみ、清潔の保持																																																																									
22	〃	②経管栄養の技術と留意点																																																																									
23	〃	③経管栄養に必要なケア																																																																									
24	〃	④報告および記録																																																																									
【使用テキスト・参考文献】 中央法規出版 医療的ケア こころとからだのしくみ		【単位認定の方法及び基準】 ノート提出、小テスト、授業への意欲、出席要件等を加味し 総合評価とします。 ※2年前期に実施する総合テスト90点以上を合格とし、後期演習には、合格が必須条件です。																																																																									